教頭会報

栃木県公立小中学校教頭会
発行者　小　川　順　子
編　集　広　報　部

もくじ

◎会長あいさつ …… 1
◎県教頭会・全国・関ブロの動き
　定期総会・講演会 …… 2
　関ブロ提言者研修会・全国専門部の活動 …… 3
◎全国研究大会（札幌大会） …… 4・5
◎特色ある学校 …… 6
◎地区だより …… 7
◎ひろば・編集後記 …… 8

会長あいさつ

学び合いを通して

宇都宮市立豊郷南小学校　小　川　順　子

平成30年度がスタートして約半年が経ちました。会員の皆様におかれましては、それぞれの学校で子供たちの健やかな成長を目指し学校運営に尽力されていることと存じます。日々の業務に追われ焦燥感にかられることがあっても、教職員の熱意ある取組や子供たちの成長を肌で感じ、その喜びや期待が仕事の励みになっているのではないでしょうか。

現在、新学習指導要領の円滑な実施に向けて、教員が子供と向き合う時間を確保できるよう「チームとしての学校」の実現、教員の長時間労働解消に向けた「働き方改革」が喫緊の課題となっています。学習指導要領改訂に係る論点整理によると、「子供たちは学校も含めた社会の中で、様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよくしたりできることなどの実感を持つことができる。学校は、こうした社会的意識や積極性をもった子供たちを育成する場である。社会に開かれた学校での学びが、子供たち自身の生き方や地域貢献につながっていくとともに、地域が総がかりで子供の成長を応援し、そこで生まれる絆を地域活性化の基盤としていくという好循環をもたらす」と、学校の意義について述べています。

私たち教頭は学校運営を担う管理職の一人であると同時に、子供の教育に直接携わる教育実践家でもあります。俯瞰的・総合的な視点をもって、学習指導や児童生徒指導を行い、教職員一人一人が持ち味を発揮し、学び合いながら子供の成長に貢献できる職場の人間関係づくりに寄与する教頭でありたいと考えます。未来の創造を目指す学校の在り方や、求められる授業の姿を探求していくなかで、教職員にとって働きがいのある・働きやすい職場環境づくりや人間関係づくりをどのように進めていくのか、そのことが、児童生徒の育ちにどうつながるのかを真剣に考えていく必要があります。

栃木県公立小中学校教頭会は、「教頭職の立場から学校運営等について研究し、教育の振興及び教育の諸条件の向上に寄与するとともに、会員相互の連携と親睦を図る」ことを目的にしています。今年は、11月に関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会を本県において開催することから、大会実行委員会を中心に準備を進め、全体会や分科会の係についても各支部で分担していただいております。提言者はもとより、各支部、会員の皆様の理解、ご協力に深く感謝申し上げます。本大会は、参加者が自校の学校改善の参考になる情報を得る貴重な機会であり、それぞれが直面する課題に向き合うヒントや解決策を考え合うなかで、会員同士の絆やネットワークが築かれることを期待しています。このような学びを大切に、今後も様々な教育課題解決に向けた活動を推進してまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

県 教 頭 会 の 動 き

研究大会に参加して（会場係）

鹿沼市立楡木小学校　竹之内　　崇

全体打ち合わせの後、11時より４名の係活動を開始しました。仕事の内容は、①受付時刻前の会場入場規制②会場内への誘導・整理③避難誘導、避難経路の確認分担④客席でのマイク待機とプロジェクター操作⑤終了後の座席復旧と忘れ物やゴミの回収でした。中でも、「想定外」と言われる災害が頻発している昨今、もしここで火災が起きたら、大きな地震が起きたら…と避難誘導のイメージを巡らせたときに、不安を隠しきれませんでした。「万全の備えなどあり得ない」を前提に、いつでもどこにいても考えておかなければならないことがあることに改めて気づかされました。

最後になりましたが、ステージ上で灼熱のスポットライトを多数浴びながらも、屈することなく職責を全うされた役員、来賓の皆様におかれましては、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

講演会から考えさせられたこと

栃木市立小野寺北小学校　中　田　伸　幸

働き方改革は、何のために行うのか。我々教職員は、児童・生徒が学校にいる間は休憩時間も取れない上、長時間働いていることが問題である。だから働き方改革を行わなければならない。そのようなぼんやりとしたイメージしかもっていなかった。しかし、妹尾先生の御講話を拝聴して、我々教職員の資質向上のために、何が何でも進めていかなければいけない喫緊の課題であると再認識させられた。

我々教職員は日々の忙しさのため、休日でも残務処理をしたり、教材研究をしたりと、頭の中は学校から離れられない。しかし、上手に時間をつくり、人から学んだり、本から学んだり、旅から学んだりすることによって、人間としての幅を広げ、より魅力的な児童・生徒指導や学習指導ができるというお話に、ただただ頷くだけだった。

自分自身を振り返ってみると、読書は教育に関するものを少々読む程度。何と幅が狭いことだろうか。教え子や自分の子どもには、いろいろなジャンルの本をたくさん読むことを薦めていたことが恥ずかしい。人から学ぶことに関しては、教職員、地域の方々、近所の方、友達と、昼間から時には夜までお話をし、お陰様で学び続けることができているのではないかと考えている。旅は…近頃行ってないかな。昔の方がいろいろ出かけ、とても楽しかった記憶がある。そして、よく失敗もしたものだ。しかし、失敗から学ぶことも多く、昔の方がおもしろい人間だったのかも知れない。

では、我々はこれからどうすればいいのだろうか。「できない」ではなく、「やる」しかない。今まで多忙の中でもがんばることのできた我々だ。意識改革や仕事の精選などにより、働き方改革を推進していきたい。いつまでも学び続けることのできる教職員でありたいと思う。そのようにすれば、人として、より魅力的になれるのではないだろうか。そして、教職員・児童・生徒はそのような我々から学び、変化の激しい困難な時代であっても、乗り越えることのできる本当の意味での生きる力を身に付けることができるのではないだろうか。本日の御講話により、働き方改革に対する意識と、がんばる意欲をもつことができた。

全国・関ブロの動き

関ブロ栃木大会研究部長会・提言者研修会報告

宇都宮市立岡本西小学校　大　木　和　明

6月28日㈭と29日㈮の2日間、宇都宮市のホテルニューイタヤにおいて、関ブロ栃木大会研究部長会・提言者研修会が実施されました。

第1日目は、開会行事後の全体会において、まず、関ブロ栃木大会研究部長・松原伸夫副校長から関ブロ栃木大会の「研究概要」についての発表があり、その後、関ブロ栃木大会研究分科会部長・水口武雄副校長から、「研究大会の分科会」についての説明がありました。その後の分科会では、1から6Bまでの14分科会に分かれて、各提言内容の検討・協議を実施し、栃木県教育委員会・小中学校長会の助言者の先生方から適宜ご意見をいただきながら熱心にグループ協議を行い、発表内容の検討や協議の柱を設定することができました。提言者にとって、発表原稿の改善点や当日までに用意する資料が明確になるなど、大変有意義な協議となったようです。また、夕方からは教育懇談会が開かれ、各都県の提言者・研修部長・司会者の教頭先生方と互いのお国自慢をしながら交流を深めることができました。

第2日目は、全体会において各分科会における話し合いの概要発表と意見交換、各都県研究部長から研究取組状況の報告があり、閉会となりました。

今回の研究部長会・提言者研修会は、11月の関ブロ栃木大会に向けて大変実りの多いものとなりました。特に、各提言者が実際に助言者からアドバイスをいただき、当日の発表に向けて見通しが明るくなったことが大きいと思われます。本番当日に向けて、ご協力の程、よろしくお願いします。

全国公立学校教頭会研究部員として

栃木市立大宮南小学校　金　敷　美由紀

今年度、全公教の研究部員として活動することになりました。研究会の運営をすることはわかっている、そして進行表を頼りに行けばいいだろうと考え、第1回全国研究部長会を迎えました。2日間にわたる研修で、第1日目は、第11期「全国統一研究主題・研究の重点」及び「全国共通研究課題」について説明があり、「3C」の視点について再確認されました。その後「本気で進める働き方改革と教職員の学び」と題して妹尾昌俊氏の講話がありました。講話の後には、各ブロックに分かれて「業務改善」について協議し、1日目が終了しました。第2日目には、引き続き各ブロックに分かれ、各単位教頭会の第11期研究の取組状況と課題について報告し合い、改善策を検討しました。終わってみて思ったことは、全国から集まる、それだけでも大変な立場の教頭・副校長先生方。尚且つ、単位教頭会やブロック大会等を動かす立場の先生方に対し、もっと協議の趣旨を充分に理解し臨むべきだったと反省しました。

明日、全国研究大会札幌大会へ向け出発します。どれほどのスケールなのか想像もつきませんが、多くの先生方が、たくさんの時間と労力をかけ今大会に臨んでいることを肝に銘じ、事前にいただいた運営要項をしっかり読み込み、北海道の先生方の運営の妨げにならないよう協力してきたいと思います。

全国研究大会（札幌大会）

全国研究大会（札幌大会）シンポジウム

宇都宮市立城山東小学校　水　口　武　雄

日本最北の政令指定都市であり、緑と人工構造物が見事に調和した196万人都市・札幌において、８月１日～３日に、約2,900名の教頭・副校長が参加し、第60回全国公立学校教頭会札幌大会が開催されました。「豊かな心とたくましく生きる力を育む　活力ある学校づくりの推進」をサブテーマに掲げた今大会は、「北海道から元気な副校長・教頭、元気な教職員、元気な子供たち、元気な学校づくりを発信していきたい」と実行委員長からの挨拶などがあった開会行事終了後、シンポジウムとなった。

シンポジウムでは趣旨説明後、東京大学大学院の勝野正章教授をコーディネーターとして、基調提案があった。チームとしての学校は重要であり、その背景には、学習指導要領の改訂、社会の多様化・複雑化などの課題、子供と向き合う時間確保のための働き方改革がある。活力ある学校づくりには、子供たちの学びは教職員の学びであり、教職員が学ぶことが重要であるとともに、教職員が支え合うことも重要で、この両輪が活力ある学校につながる。

また、３名のシンポジストからお話をいただいた。十勝バス株式会社社長　野村文吾氏から「どんな時も自分を脇において相手を引き立たせてあげることが重要であり、どこまで自分の役割に徹するか。また、『恩送り』受け取ったものをより良きものにして次の人に渡すことが重要。」リレハンメル冬季オリンピック金メダリスト阿部雅司氏から「失敗から多くのことが学べるから、失敗を恐れず色々なことに挑戦することは重要。何かに迷ったら、相手の立場で考えることは大切。」文部科学省教科調査官安部恭子氏から「教頭は職員室の担任。私たちの学校という思い、集団の質を高めるためには話し合いは欠かせない。また、自分で自分を分析する力は重要。」など示唆に富むお話をいただいた。

記念講演「組織の活性化を実現するナンバー２の役割」を聴いて

宇都宮市立雀宮中学校　加　藤　悦　宏

講師の白井一幸氏は、1983年、プロ野球・日本ハムにドラフト１位で入団し、活躍。引退後はニューヨーク・ヤンキースにコーチ留学。2016年には日本ハムのヘッドコーチとして“球界の奇跡”と言われた11.5ゲーム差からの逆転優勝に貢献しました。

今回は、組織作りとNo.２の役割についてお話をして下さいました。以下その一部を紹介します。

- ヤンキース留学時代に感じたのは、グラウンド整備員を含めた１軍から６軍までの関係者すべてがヤンキースの一員として優勝を目指している、組織の全員が世界一を自分の目標としているということ。（日本では、１軍関係者だけ。）
- 「（世界一を）目指した人だけがそこに到達できる。」、「目指した瞬間、そこに行ける可能性が高くなる。」すぐに結果は出ない。しかし、目指す練習なら今日からできる。
- 「目指すこと」と「それにふさわしい取組」。何を目指すかで取り組み方が変わる。
- 出来ることをコツコツと一生懸命やる。すると「運」がくる＋実力が付いてくる＋信頼がついてくる。
- 選手が成長するためにコーチがいる。コーチは関わり続ける。選手が変わらなければ関わり方を変えてみる。また、人は任されると力を発揮する（信じる・任せる・感謝する）。
- ヘッドコーチは意見、具申、進言するのが仕事。決めるのは監督。監督は決めたらそれを全力で実行する。

その他、「運」を引き寄せる人の例として栗山英樹監督を挙げて、エピソードを話して下さったり、大谷翔平選手との思い出を話して下さったりと充実した内容の講演であり、参加者からも大変好評でした。

特別分科会Ⅰ「特別支援教育を通した活力ある学校づくり」に参加して

宇都宮市立鬼怒中学校　渡　邉　順　一

午前中は、講師に作家でエッセイストでもある、山元　加津子氏を迎えた講演と質疑応答でした。山元氏は、小学校、特別支援学校での勤務経験があり、実践を通されてのお話でした。特に午後のグループ協議に繋がる内容として印象深く感じたのは「様々な個性を持った子供たちがみんなで一緒に学び、どの子も輝いている学校をつくっていく」というところでした。このことは、午後の協議でも取り上げられ、そのために副校長・教頭として何をすべきか、学校組織をどのようにつくっていけばよいかというテーマで話し合いを深めました。７人グループの中には特別支援学級が無い学校や全員が特別支援学級等の担任はなされたことがない方ばかりでしたが、普通学級の中での合理的配慮であるとか、インクルーシブ教育推進のための副校長・教頭の役割について、皆さんと積極的に話し合うことができました。

副校長・教頭として大切な役割とは、担任を決して孤立させないために情報の共有を図るということ。児童・生徒の自己有用感の向上を図るとともに、信頼感を与える機会や場を校長先生の指導を受けながら組織的につくっていくこと。このことが重要であると確認し合いました。

全国の同じ立場の仲間たちと交流し、学び会えたことは、私自身元気と勇気をもらえる機会となりました。

第１Ａ分科会に参加して

宇都宮市立瑞穂野北小学校　伊　藤　裕　之

教育課程に関する課題の第１Ａ分科会では、１グループ７～８名の37グループに分かれ、提言に対し「継続性」、「協働性」、「関与性」の３つの視点でグループ協議を行いました。

午前中は、「学校組織整備と地域の連携を大切にした信頼される学校づくり～次代に求められる資質・能力を育む教育課程を創造する教頭の役割～」と題し、大阪市立十三中学校の提言がありました。大阪市全市の取組、「学校元気アップ事業」の地域連携の様子や学力向上を図る教育課程の編成、安定した学校づくりのための学校安心ルールの策定などが紹介され、協議する中で、働き方改革とも関連し、教頭がコーディネートしながら、忙しくならない地域連携の方策を学校が考えていかなければならないと思いました。

午後は、「共に生きる力を育む社会とつながりのある活力のある子供、地域、学校づくりを目指して～健やかな身体の育成のための教頭としての関わり～」と題し、札幌市全市一斉の取組について札幌市立真栄小学校から提言があり、各校で健やかな身体育成プログラムを作成する中で、教頭が多方面と様々な共有をしながらプログラム作成の要となっている様子が紹介されました。教育課程への位置づけや具現化する教頭の役割について活発な意見交換がなされ、ＰＤＣＡサイクルによる教育課程の検証や改善をしていくとき、目指す子ども像をしっかり設定することの大切さを改めて確認することができました。

全国各地の取組に触れ、さらに情報交換しながら見聞を広めさせていただきました。このような貴重な研修の機会をいただいたことに心から感謝申し上げます。

開かれた学校づくり～オープンスクール～

鹿沼市立粟野中学校　田　中　　茂

本校は、平成15年に旧粟野町の４中学校が統合し、開校しました。平成18年には、鹿沼市との合併により、鹿沼市立粟野中学校となりました。現在の生徒数は199名で、生徒は落ち着いて生活しており、保護者や地域は学校に対し協力的です。自然豊かで素晴らしい環境に恵まれた本校では、２年前より開かれた学校づくりの具現化を図り、学期に一回「オープンスクール」期間を一週間から２週間設定し、芸術作家の作品展示、音楽会や講演会、作家とともに行う鑑賞授業を行っています。昨年には、地域コーディネーターと学校支援ボランティアの方々で「オープンスクール実行委員会」が発足されました。学校の敷地内に「バラ園」の造設も行われました。今年度は、５月21日㈪～６月１日㈮まで絵画、彫刻作家の四人展、鑑賞授業、５月27日㈰にはオープンスクール春フェスを実施し、約千人の来校者がありました。

春フェスでは、かぬま和牛Ａ５ランク牛スジトロトロ煮込みカレー、とちおとめゴロゴロいちごミルク、永野自家焙煎コーヒーを提供し、吹奏楽部の演奏や作家によるギャラリートーク、バラ園の鑑賞などを企画しました。地域のボランティアの方々や生徒による運営で盛況でした。とちぎテレビや下野新聞の取材もありました。

オープンスクールの取組を通して、生徒の鑑賞能力やコミュニケーション能力の向上を少しずつ感じるようになってきました。今後は、地域の活性化に繋がるような活動を展開していこうと考えています。

西中の伝統「いじめ撲滅運動」

足利市立西中学校　髙　木　秀　和

本校では、平成14年度より生徒会を中心として『いじめ撲滅運動』を推進しています。いじめをゼロにしたい、しかし、ゼロにはなかなかならないという意識をベースにしており、この取組は完結することなく脈々と続いているのです。本年度も、６月29日の生徒集会で、本部役員がいじめについての劇を行いました。学校生活の中で、誰しもがいじめる側、いじめられる側になる可能性があることを示唆する劇をもとに、いじめ撲滅をテーマにディスカッションを実施しました。いじめをなくすために、今の自分ができることについて、一人一人が考えを付箋紙に書き、グループで発表し合い、その意見や考えを模造紙にまとめます。どのクラスも、活発なディスカッションが行われました。そして、このいじめ撲滅への取組を持続させるために、地域のみなさんと合同であいさつ運動を行ったり、いじめ撲滅の啓発を大凧に記して凧揚げ大会へ参加したり、年間を通して運動を展開していきます。さらに今年度は、６月６日に開催した創立60年記念式典に、本校の卒業生であり、プロレスを通していじめゼロ運動を展開しているKAMIKAZEさんを講師として迎え、「強い人間になれ！西中生！」という演題での講演とプロレスの実演を披露していただきました。「いじめなんて、弱いものがすること、強い人間になって、いじめんなんか絶対にするな！」というメッセージは、強く生徒、教職員、保護者、地域の皆さんに伝わりました。今後も、生徒会を中心に、生徒、教職員、保護者、地域の皆さんと、伝統ある『いじめ撲滅運動』を続けていきたいと思います。

第11期研究の２年次

宇都宮市・上三川町小学校副校長会長　黒　田　昌　宏

宇都宮市・上三川町小学校副校長会は、副校長・教頭77名（宇都宮市70名、上三川町７名）で組織されています。

本会では、全国公立学校教頭会統一研究主題「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」を研究主題として、平成29年度から平成31年度までの３年間にわたり、６つの研究課題（①教育課程に関する課題、②子どもの発達に関する課題、③教育環境整備に関する課題、④組織・運営に関する課題、⑤教職員の専門性に関する課題、⑥副校長・教頭の職務に関する課題）について、10班に分かれて研究を推進しており、本年度は研究の２年次にあたります。各班では、研究課題を受けて主題・副主題を設置し、これまでの研究を基盤として、副校長（教頭）として「いつ」「だれに」「どのようにかかわってきたのか」、更に「結果はどうなったのか」「どう改善が図られたか」等について、各学校の実践を通して副校長（教頭）の働きかけ（機能）のあり方をより明確にしていくことを研究の柱とし、継続性・協働性・関与性に焦点を当てた実践的研究を進めています。本年度は１年次の研究の成果と課題を踏まえ、研究の更なる充実を図っています。また、本会の研究体制を生かし、各会員がそれぞれの課題を持って実践し、協働性のある研究となるよう努めています。

11月の関ブロ栃木大会では、本会から２つの班が提言発表（「人材育成を図り、学校組織を活性化するための教頭の役割」「地域とともにある学校づくり」）を行います。また、１月には各班の研究をまとめた研究集録が出来上がり、２月には本会の全体研修会で４つの班の提言が発表され、各分科会で研究討議されます。

教職員の授業力向上を図るための教頭の役割

芳賀地区小中学校教頭会長　関　本　光　昭

芳賀地区の教頭会は、真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町の１市４町の小学校29名、中学校15名、計44名で組織されています。

新学習指導要領の重要な柱となる「主体的・対話的で深い学び」を推進するためには、研究授業・授業研究会を充実させ、どのクラスでも質の高い授業を提供しなければなりません。また、急増する若手教員の授業力とミドルリーダーの育成が喫緊の課題となっている中、芳賀地区では、「教職員の授業力向上を図るための教頭の役割」を研究主題に掲げ、３か年の研究を進めています。２年目となる本年度は、昨年度のアンケートによる実態調査を受けて、教職員の授業力向上を図るため、教頭としてどのような役割を果たしていくかについて、関与表を作成し、教頭としての関わり方を可視化することを試みるとともに、見通しを立てて研究を進めてきています。

研究の概要は、⑴関与表の作成⑵関与表の実践と記録（実践事例）①大・中規模中学校における縦割り授業の実施②授業づくりあたりまえ10箇条の実施③スタンドサブジェクトミーティングの実施④行動基準表と連動した授業力向上への取組など４つの事例を基に、教頭としてどのようして関わっていくことで研究のねらいに迫れるかをまとめています。

以上の研究について、第59回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会栃木大会で発表することになりますが、本研究および発表が、県内はもとより関東各都県の教頭先生方にとりまして、少しでも参考になることを願うとともに、発表内容につきましてご助言等いただければ幸いに存じます。

ひ　ろ　ば

日本酒万歳！

宇都宮市立河内中学校　秋　山　　哲

日本酒が好きだ。学生時代からの付き合いだから、30年以上になる。

飲み始めたきっかけは、ウイスキーやビールと比べてコストパフォーマンスがよいからだった。しかし、原料の米、麹、水や発酵に使う酵母でその味は千差万別、その味の多様性の虜になった。

のめり込むにしたがって、しでかした失敗は数えきれない。

学生時代のサークルコンパでは、土鍋のふたに日本酒を注ぎまわし飲む儀式があった。自分の酒の強さを過信して挑んだ結果、意識消失。気が付いた時には、顔中にサインペンで落書きをされていたことがあった。

また、妻の親戚の家で「幻」と呼ばれる酒が出され、ブレーキが壊れて女房に担がれて帰宅。一週間は口をきいてもらえなくなったことも…。

最近は、若山牧水の「白玉の歯にしみとおる秋の夜の酒は静かに飲むべかりけり」の歌のように、一人で、或いは気の置けない仲間と、酒のうまみを味わいながら飲む「大人の酒」が飲めるようになり、この年になって少しは成長したのかな、と思っている。さて、今夜はどの銘柄を飲もうかな。

県内初の義務教育学校

小山市立絹義務教育学校　鈴　木　勝　己

本校は、昨年４月に栃木県内初となる義務教育学校として開校し、２年目を迎えた。小学校６年間を前期課程、中学校３年間を後期課程としながらも、義務教育９年間の学年段階の区切りを柔軟に考え、１～４年生を「基礎・基本期」、５～７年生を「習熟・接続期」、８・９年生を「充実・発展期」の３つに区分したのが特徴である。

具体的には、既存の校舎を活用（旧絹中学校と旧福良小学校がフェンス１枚を隔てて隣接していたものを渡り廊下〈通称：シルクロード〉でつなぎ、西校舎と東校舎として利用）し、１～４年生は東校舎に、５・６年生は西校舎に教室配置した。５～７年生の習熟・接続期を意識して同じ校舎に配置し、学びのつなぎをハード面から行いやすくしたことである。また、ソフト面では、小・中学校両方の教員免許を持った教員で構成し、１～９年生に対して、全教職員で指導できる体制を整えた。前期課程（小学校）の教員と後期課程（中学校）の教員が互いに他の課程（校種）の出授業を担当するなど、専門性を生かした教育を推進している。

制度面での充実や９年間を見据えた学習指導計画の確立、日課や行事の精選など課題は山積しているが、子どもたちにとってよりよい学びと育ちができるよう、教職員一丸となって努めていきたい。

ゴルフから学ぶ信頼される教師の条件

那須町立学びの森小学校　田　代　　充

私は、趣味としてゴルフをしています。腕前は、まあ、一緒に回った人たちに迷惑をかけない程度です。やはりゴルフは自然の中で楽しめるスポーツですから、健康的かなぁと思います。もちろんスコアが悪いと落ち込み、ストレスも溜まりますが、そこも含めて楽しもうかなと思っています。

さて、ゴルフというスポーツには、他のスポーツにはないある特徴があります。それは、ライバルを応援するという要素です。例えば、同伴プレーヤーが林に打ち込んだら一緒に探したり、良いプレーをしたら「ナイスショット！」と声を掛けたりします。また、相手が嫌がることや、プレーの妨げとなるような行為は絶対にタブーです。また、同伴プレーヤーだけでなく後続プレーヤーのためにも、ディボット痕やピッチマーク、そして、バンカーを直します。

ゴルフのように、自分のことだけでなく全体にとって何が最適なのかを考える行動習慣は、教師として信頼されるためにも大切なことだと思います。自分のことばかり主張したり、自分優先で物事を考えたりしていると、必ず何らかの弊害が生じます。常に、全体における「最適」を考えて行動すること。信頼される教師の条件の一つを、ゴルフから学んでいます。

編集後記

まさに「猛暑」という言葉がぴったりの夏でした。あまりの暑さに、プールにも入れないという異常な事態も起こりました。この会報が発行される頃には涼しくなっていることを祈ります。

さて、第47号は、定期総会や全国・関ブロの動き、札幌市で行われた全国大会の報告を中心に編集しました。

関ブロ栃木大会まであと少し。研究の成果を、関東甲信越地区へ、さらに全国へ発信できるように、会員一丸となって大会を盛り上げたいものです。

末筆ながら、お忙しい中原稿をお寄せいただいた皆様に、深く感謝申し上げます。

（村岡）